

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397500063		
法人名	株式会社瑞穂介護センター		
事業所名	グループホームあいる弥富 きんぎょ		
所在地	愛知県弥富市森津九丁目14番8		
自己評価作成日	2019年8月23日	評価結果市町村受理日	令和2年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じられるような場所へ出かけ、花等も楽しんで頂いている。今年から夏祭りも家族参加できるよう計画し、家族との交流の場を増やしている。ご利用者一人一人の思いやケア、職員の気づきをミーティングを通して共有し、皆でよりよく過ごすための提案や検討を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyou_syoCd=2397500063-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの敷地が広く、ホーム内も開放的な雰囲気がつくられている。利用者の中には、日常的にホーム敷地の庭で過ごしている方もあり、庭の手入れを日課にする等、利用者が役割を果たしながら、日常生活の中で圧迫感を感じないような配慮が行われている。災害に関するホームの新たな取り組みとして、ホームの隣にある他のグループホームとの合同の避難訓練の実施が行われている。水害が想定される地域でもある状況を踏まえながら、事業所間で連携した対応につながる取り組みが行われている。昨年度は、職員の離職者が多く利用者への十分な支援を行うことが難しい状況でもあったが、新たな職員が加わり、職員体制が徐々に整ってきたこともあり、毎月のホーム便りを作成したり、カンファレンスを通じた情報の共有等、利用者や家族の安心感にもつながる取り組みが行われている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和1年9月28日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	<ul style="list-style-type: none"> ・会議やケアミーティング等で話し合い、参加ができない時は議事録で確認している。 ・「全てはご利用者の為に」を念頭に置き、日々職務に努めている。 ・法人やケアの理念を話し合い、実践できるよう意識している。 	「全てはご利用者の為に」を基本理念に掲げており、ホーム無いに理念の掲示が行われている。職員が日常の支援の中で理念が目指している内容を意識するように、ミーティング等の機会を通じて、職員への働きかけが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の祭りや行事にはできる限り参加できるよう努めている。 ・ボランティアも含めまだ関わりが少ないと感じる ・利用者の散歩の時に地域の方とコミュニケーションをとっている。 	ホームの近隣に住宅がないこともあり、地域の方との日常的な交流が難しい状況ではあるが、近隣の幼稚園とは運動会を通じた交流をつくる取り組みが行われている。地域の町内会に入り、回覧板が回覧される等、地域の方との交流の機会がつけられている。	ホームの職員体制が難しい状況でもあったため、地域の方との交流が限られた範囲ではあったが、職員体制が徐々につくられていることもあるため、今後に向けた交流の機会が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にご家族や地域の方への参加を依頼し、ご意見を頂くことでサービス向上に努めている。	会議については、ホームの近隣にある他のグループホームと開催日時を調整しながら開催しており、毎回の会議に市職員の参加が得られている。また、幼稚園の園長の参加もあり、交流の機会にもつながっている。	家族の参加については、ホームからも全員の方に案内を行っているが、参加が得られていないこともある。ホームからの継続的な家族への働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・直接的には関わらないが管理者を通じて意識するようになっている。 	市担当部署とは、毎回の運営推進会議を通じた情報交換の他にも、市内の介護事業所が集まる連絡会を通じた情報交換の機会がつけられている。また、地域包括支援センターとも、困難事例に関する連携等、定期的及び随時の交流が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束防止委員会の内容を議事録やミーティングで確認している。 ・夜間のみ防犯の目的で施錠をしている ・どんなことが虐待に当たるのかを知り自分が意図せず虐待しないよう注意している。 	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者の中には日常的に外で過ごしている方もいる。また、定期的な検討会や職員研修を実施し、現状の確認や利用者への対応を振り返る機会がつけられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・会議で特にスピーチロックの事例を挙げ共有し皆で防止できるよう注意喚起をしている ・勉強会を開催し自分たちの言動・行動を振替ることで改善に努めている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・研修が不足している。職員全体での学ぶ機会を作り、知識を持ちたい。 ・まだしていない ・研修の機会を生かして活用できるように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	行っている ・個々の契約で説明を行い理解を図ってもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見交換しやすい環境ではある。 ・運営推進会議をご家族も交えて行っている ・家族の要望を反映して運営に生かしている	ホームで行われている行事の際には、家族にも案内を行っており、家族との交流の機会がとられている。家族からの要望等には、管理者の他にも運営法人でも対応する体制がとられている。また、毎月のホーム便りの作成が始められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・反映されていると思える ・月2回のミーティングで意見交換を行い提案を反映させている	毎月のユニット会議やユニット合同の会議が行われており、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。今年度に入り、新たな職員による体制がとられていることで、段階的に役割分担等の取り組みを充実させる方針である。	新たな職員による支援体制がとられたことで、ユニットリーダーによる支援体制等、利用者への支援の充実にもつながっている。今後に向けて、職員体制が充実し、利用者への前向きな支援につながることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・各職員の意見を聞きながら働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新規採用職員研修等実施している。受ける側・抗議する側の向上につなげている。 ・行っている ・書く研修等を協力的に出席参加していくことをすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・まだ取り組んでいない		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・面接を実施して要望等を聞いて不安を少しでもなくしてもらっている ・入居時に話をし、今の気持ちはどうか等聞くようにしている。 ・信頼関係が築けるよう努めている。 ・事前調査を行い関係性づくりに努めている。 			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・要望などを聞き入れて関係づくりにつとめている ・努力している 			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・必要としている支援をサポートしてサービス利用に対応している ・努力している 			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・支援をしながら暮らしに伴った関係を築いている ・できる限り興味のあることや一緒にできることを行っている ・ご利用者の身体状況に合わせて食事の準備や片付けをして頂いている 			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の意向を聞きながら支援をしている ・行っている ・ご家族からの訴えに対してキチンと向き合い話合うことで関係づくりを心掛けている 			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の希望を聞きながら支援に努めている ・まだ行えていない 	利用者の中には、入居前からの関係の方がホームに訪問して利用者と過ごしたり、家族の協力も得ながら行きつけの理美容を継続している方もいる。また、家族との随時の外出の機会も得られており、身内の方の冠婚葬祭等を通じた交流も行われている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション等で入居者様が楽しめるようなことを行っている ・利用者トラブルの際には話を聞くようにしている。申し送りをして共有・対策を考えている ・利用者同士の関わり合いを大切に支援している ・利用者同士の相性を考慮して席の配置等決めている 			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・契約終了後も家族へ連絡しフォローしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・本人の話を聞かせて頂く ・意向確認がはっきりしている方には聞き取りをしている。	徐々に職員体制が整ってきていることもあり、担当制も活用しながら利用者の状況や意向等の把握につなげる取り組みが行われている。また、カンファレンスについては毎月実施しており、職員間で利用者に関する意向等の検討と共有が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前調査で行っている。 ・ご入居前に利用者の情報を全職員で共有している ・フェースシートで確認したり本人と反して把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・無理強いをせずご本人の生活リズムに合わせてケアしていくようにしている。 ・把握できるよう努めている ・利用者一人一人の有する能力を把握し、個々に合ったケアを行っている ・毎日声掛けをして状態を確かめるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・何か変化あれば相談をしてどうしていくかを決めるようにしている	介護計画については、6か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等を把握しながら毎月のモニタリングを実施している。また、介護計画の見直しに合わせた家族との話し合いも行われており、利用者の現状に合わせた介護計画がつけられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・行っている ・反映できるよう努めている ・申し送りノートへ記入して情報を共有するようにしている ・		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・ご本人の希望時には個別で外出等をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・本人が楽しめるものを探して支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・定期的に訪問診療を行っている ・適切な医療を受けられるよう支援している ・定期往診時に訴えがあったことなどを伝えている。	協力医による定期的な訪問診療や随時の連携が行われているが、利用者の中には今までのかかりつけ医を継続している方もあり、家族の協力で受診している。また、今年度より訪問看護を開始しており、利用者への医療面での支援にも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している ・日常生活で訴えがあった場合や皮膚状態を観察してなにかあれば報告や確認をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院と情報交換や相談に努めて早期に入退院ができるよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・終末期の在り方について本人や家族の要望・意向に沿って支援している。 ・ファイルで確認している。	利用者の看取り支援にも前向きな取り組みが行われており、利用者、家族の意向に合わせた支援に取り組んでいる。管理者が看護師でもあり、家族との話し合い、協力医との連携、職員への指導等を行いながら、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・事故発生時に備えて応急手当や初期対応できるように努めている。 ・ファイルで確認している ・ホーム内に対応マニュアルがある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・災害時での避難訓練をしながら災害時にそなえている ・ファイルにて確認している	年2回の避難訓練を実施しており、職員間で連携した対応につなげる取り組みが行われている。水害が想定される地域でもあり、ホームに隣接している他のグループホームとの合同訓練が実現している。また、備蓄品については、段階的に整えている状況である。	ホームの近隣に住宅がないため、非常災害時の地域の方との協力関係は難しい状況である。今回実現した隣接のグループホームとの合同訓練を継続し、事業所での協力関係の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者個々に合った声掛けや話し方を意識して対応している ・声掛けや言葉遣いには気を付けている ・プライバシーが守られるよう努めている 	理念にも掲げている「利用者の為」になるような支援が行えるように、職員による利用者への対応や言葉遣い等について、管理者からの注意喚起等の取り組みが行われている。また、利用者への対応を含めた職員研修の機会もつくられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々ご利用者様自身で自己決定できるような声掛けをしている ・強制ではなく個別での外出も行っている ・できる限りの希望は聞くようにしている 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ等本人の行きたいときに行けるように介助している ・一人一人のペースを大切に日々支援している 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> 起床時等身だしなみには気を付けている。 ・利用者によっては化粧をされるなどおしゃれを楽しんでいる 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と職員と一緒に食事を摂ることでコミュニケーションをとるようにしている ・味噌汁等ご利用者でできることを一緒におこなっている ・買い出しや調理・片付けも職員と一緒にしている 	食事については、外部業者により提供を受けており、ホームのキッチンで温めて提供している。利用者の身体状態に合わせた食事形態の提供も行われている。また、おやつ作りの取り組みや食事の際には、職員も一緒に食事が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・食事量が少なかったりすると医師に相談して指示をもらうこともしている ・水分量が少ない方には好む飲み物などを提供するなど工夫している 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後に口腔ケアをしている ・自分できるところまでは本人で行っていただいている ・義歯洗浄もお手伝いしている 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・声掛けをしてトイレ誘導をしている ・個々の利用者が自立できるよう見守りながら支援している ・なるべく自分の力でできるようできない部分のみ手伝うようにしている 	<p>利用者の排泄記録については、日常的に電子記録を残しながら、職員間で情報を共有し、一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。排泄内容の検討や排泄に関する医療面での連携も行いながら、利用者の排泄状態の維持、改善につなげている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食物での工夫をしながら支援している ・100%のジュース等水分摂取や排便を促せるように提供している ・皆が理解しているかはわからない 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のタイミングに合わせて個々の希望に沿った支援をしている ・週に3回入浴している。拒否される場合は翌日に振り替える等し無理なお誘いはしないようにしている ・機械浴の方での随時対応できる体制をついている 	<p>入浴については、利用者が週3回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方にも職員間で声かけ等の連携が行われている。また、ホームにはユニットにより、浴室にリフトが設置されており、身体状態が重い方も浴槽に入ってもらい支援が行われている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の体調に合わせてその時々状態に応じて休息 ・温度・照明の調節などしている ・シーツ交換を週1回行い気持ちよく過ごしてもらっている ・ご利用者個々の生活スタイルに合わせて自由に休息している 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬チェック表を利用して支援している ・申し送りを確認して情報把握に努めている ・内容把握に努めている。異常等あれば医師に相談している。 ・職員同時連絡を行い記録を残している 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション等で利用者の気分転換を図っている ・歌を歌ったり運動したりしている ・できることへの参加や働きかけは行っている 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の希望に沿って外出できるよう努めている ・毎日ではないが希望時にできるだけ散歩等に行けるようにしている 	<p>ホームの近隣が田園地区であることで、利用者の日常的にホームから散歩等に出かける機会がつけられている。利用者の中には日常的にホームから外に出る機会がつけられている。また、外食や季節等に合わせた外出行事も行われている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・お金の管理ができる利用者は買い物等に行くときに自分でお買い物をしている ・立て替え金等自己管理できない方でも安心していただけるよう声掛けをしている ・事務所管理が基本だが自身で管理している方もある。必要な時には使用できるようになっている 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ごとに家族などの手紙や電話の取次ぎ等、家族間のやり取りができるよう支援している 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に合った飾りつけをご利用者と一緒に行っている。 ・空調の管理を行い快適に過ごせるようにしている ・貼り絵等季節に合った作品等を壁に貼るなどしている 	ホーム内は広めの空間が確保されていることで、開放的な空間であり、利用者の日常の中でゆったり過ごることができる生活環境がつけられている。また、リビングや通路の壁面には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファーや椅子等好きな場所でのんびり過ごせるようにしている。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に快適に過ごしていただけるよう心掛けている ・家族とも相談し過ごしやすい居室づくりを行っている ・自由に入出りできたり、好みのものを置くなど配慮している 	居室内に収納スペースが設置されていることで、車椅子で生活している方も居室を広く活用することができる。また、利用者や家族の意向等にも合わせながら、馴染みのある品々や好みの物等の持ち込みが行われており、意向等に合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫をする努力はしている。 ・ご利用者個々のできること等を把握しできる限り自立した生活ができるよう心掛けている ・トイレや自室がわかるように張り紙をするなど工夫している ・共同生活が送れるよう配慮している 		